

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 4 年 1 1 月調査結果 - -

(平成 1 4 年 1 2 月 3 日)

調査期間：平成 1 4 年 1 1 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 1
小売業 7 4 6 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年11月調査結果のポイント】

景況は低水準で推移 先行き不安感強まる

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（52.3）よりマイナス幅が1.9ポイント縮小して50.4となった。DI値は4月以降、一進一退を繰り返しており、9、10月にマイナス幅が小幅拡大の後、今月は再び小幅縮小し、不安定な動きを示している。

業種別の業況DIを見ると、建設、製造、卸売の3業種でマイナス幅が縮小したが、小売、サービスでは拡大した。DI値の水準はマイナス50台と依然として低く、消費の低迷や競争激化、商品単価の下落、先行き不安感を訴える声が多数寄せられており、中小企業の足下での景気の回復感は感じられない。

【建設業】では、「相変わらずの競争の激化、官民ともに発注量の減少、収益率の低下で、厳しい状況」（一般工事）といった声が多く、「年末にかけて小規模な受注はあるが、利益確保につながらない」（電気工事）、「中堅企業の倒産が出ており、潜在的に倒産寸前の予備軍が多くあると懸念」（一般工事）など、年末に向けて厳しい状況を訴える声も多い。「補正予算について、インフラ整備がどの程度の規模になるかに関心」（土木工事）と、今後の補正予算編成についてのコメントも寄せられている。

【製造業】では、「商品提案力や販売力の差による好不調が目立っている」（ニット・シャツ）と企業間格差を指摘する声が寄せられているほか、「原油価格の値上がりにより、樹脂、塗料、ガスなどの値上げが続いている」（計量器測定器等）と、仕入れコストの上昇や、「短納期、低単価が恒常化しており、受注量はあるが採算はギリギリ」（電子部品）、「親会社が海外生産を始めたため、受注が半減し廃業するなど、深刻な状況が見られる」（鉄素形材）など、厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「寒波の到来が早く、冬物の動きが活発」（衣服・日用品）といった声があるものの、「例年、今の時期は年末商戦への期待の声が聞かれるが、今年は無く、不安感が広がっている」（各種商品）と、消費低迷による年末商戦の動向への不安感を訴える声や、「仲買人の注文品目の多様化に伴い、見込み仕入をせざるを得ない状況」（食料・飲料）と、消費動向の変化への対応が難しくなっていることを指摘するコメントも寄せられている。

【小売業】では、「客数は減っていないが、売上は対前年比減少」（各種商品）と客単価の下落を訴える声や、「寒さが早く来たので、防寒物が売れて昨年の売上を維持できている」（商店街）と天候の影響を指摘するコメントが寄せられており、「消費者の収入への不安からくる買い控えがみられる」（商店街）との声や、「お歳暮売場を去年より早めて開設したが、低調」（百貨店）、「歳末商戦に賭けるが、消費者の財布の紐は固く、厳しいと思われる」（百貨店）との厳しい見方が寄せられている。

【サービス業】では、「企業・役所の出張や宴会等の自粛のためなかなか業績が上がらない」（旅館）、「各企業の業績悪化により、小型輸送の宅配便は増加しているが、大型トラック輸送が減少」（運輸）、「家庭で洗濯できる安い衣料が増え、クリーニングに出す絶対量が減ってきている」といった声や、「忘年会予約状況鈍く、会社単位の忘年会は減少し、小人数グループ化していく見通し」（食堂、レストラン）など、年末に向けて宴会需要の減少を懸念する声が寄せられている。

売上面では、前月水準と比較して、サービスを除く4業種でDI値のマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して42.5となり、3カ月振りにマイナス幅が縮小した。

採算面でも、建設、小売を除く3業種でマイナス幅が縮小し、全産業合計の採算DIは1.4ポイントマイナス幅が縮小して44.2と、業況および売上DIとともに、3カ月振りにマイナス幅が縮小した。

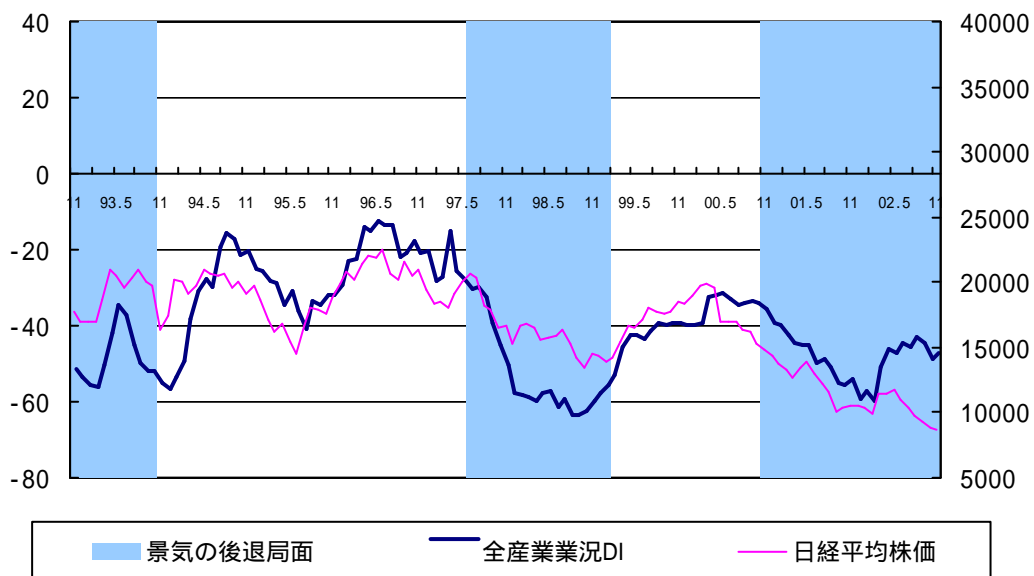
向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が45.1と、昨年同時期の先行き見通し(50.4)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の減少や消費不振、商品単価の下落、仕入れコストの上昇に関するコメントが目立っている。

DI値

株価(円)

参考 過去10年間の全産業・業況DIの推移



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（52.3）よりマイナス幅が1.9ポイント縮小して50.4となった。DI値は4月以降、一進一退を繰り返しており、9、10月にマイナス幅が小幅拡大の後、今月は再び小幅縮小し、不安定な動きを示している。

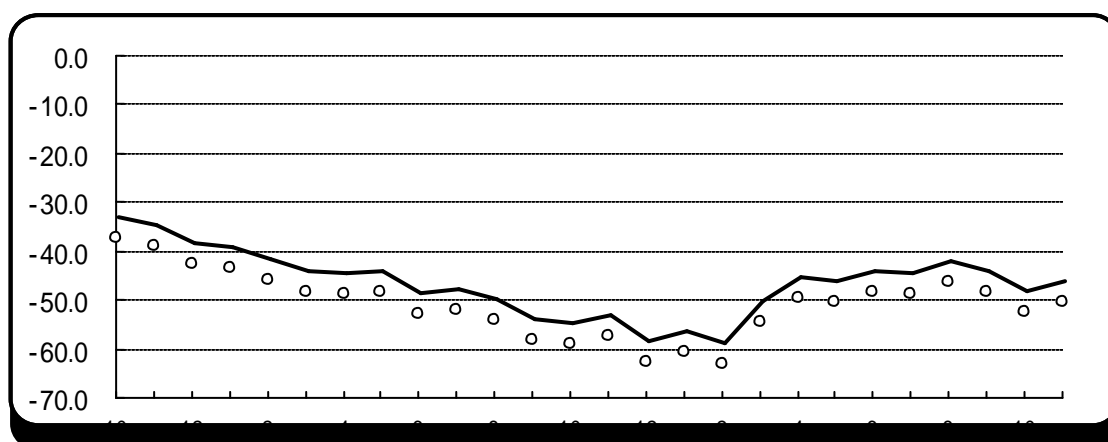
向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が45.1と、昨年同時期の先行き見通し（50.4）と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	48.1	48.9	46.4	48.1	52.3	50.4	45.1 (50.4)
建設	61.6	57.1	55.7	56.8	63.7	62.9	60.6 (64.1)
製造	48.5	47.6	44.8	49.2	53.7	46.7	41.2 (57.5)
卸売	52.1	48.7	46.6	50.6	57.1	44.9	43.1 (50.3)
小売	41.1	49.1	45.0	42.3	45.8	46.0	40.6 (43.7)
サービス	45.8	44.5	43.4	47.2	49.4	53.7	45.3 (40.8)

先行き見通しは当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年11月の先行き見通しDI<以下同じ>

業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

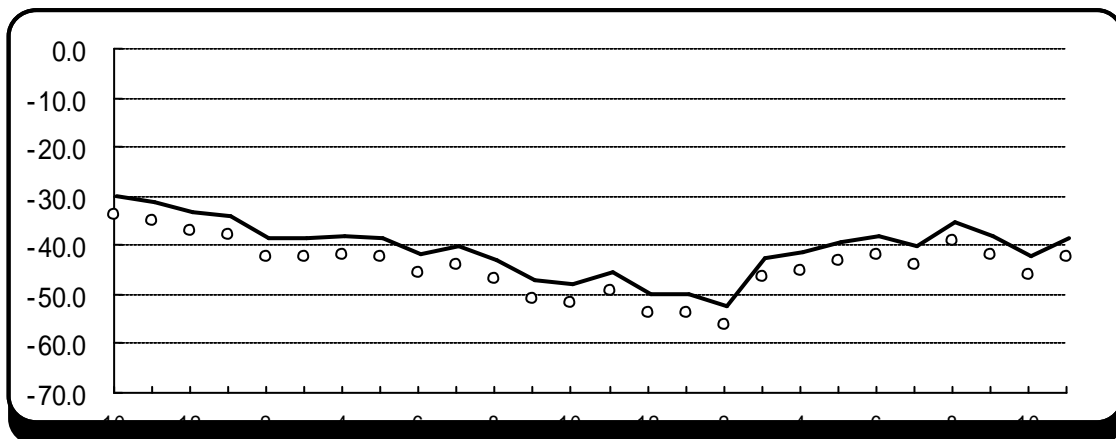
売上面では、前月水準と比較して、サービスを除く4業種でDI値のマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して42.5となり、3カ月振りにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が37.7と、昨年同時期の先行き見通し(42.7)に比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	42.0	44.0	39.1	41.9	46.0	42.5	37.7 (42.7)
建設	56.5	48.7	45.7	47.0	56.9	56.3	53.2 (58.6)
製造	40.0	41.6	37.6	42.8	44.5	41.2	37.5 (50.7)
卸売	45.6	45.5	39.8	48.1	55.8	37.1	33.5 (41.3)
小売	38.7	45.3	39.4	40.2	39.8	35.8	30.7 (34.2)
サービス	37.0	41.3	35.7	37.3	44.4	44.7	37.7 (33.3)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

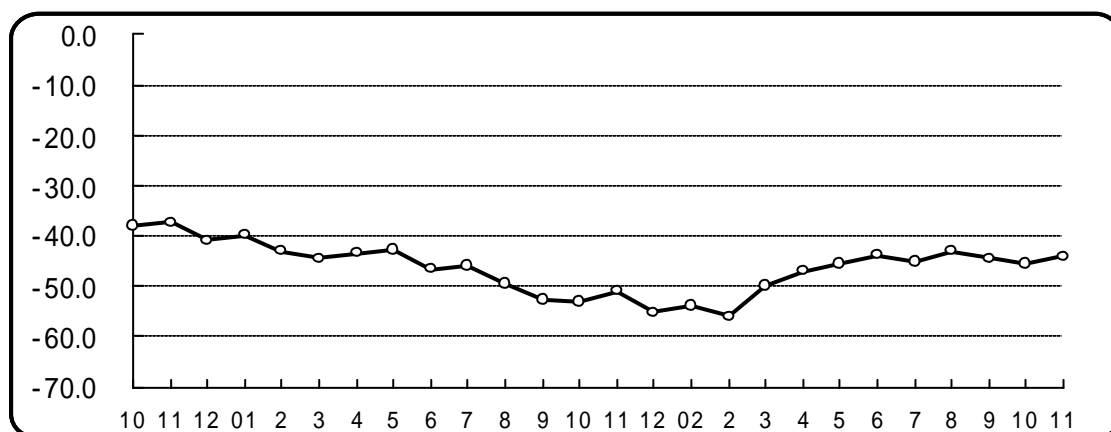
採算面でも、建設、小売を除く3業種でマイナス幅が縮小し、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が1.4ポイント縮小して44.2と、業況および売上D Iとともに、3カ月振りにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が37.5で、昨年同時期の先行き見通し(44.9)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

採算D I (前年同月比)の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	43.9	45.2	43.0	44.5	45.6	44.2	37.5 (44.9)
建設	60.5	56.6	59.6	56.8	60.5	61.3	55.1 (60.1)
製造	44.8	46.1	44.9	45.9	51.4	46.3	39.0 (52.0)
卸売	42.0	43.1	40.4	48.1	50.3	37.1	31.1 (40.6)
小売	37.0	42.0	36.3	35.5	29.5	33.9	28.8 (36.3)
サービス	41.2	41.3	38.7	44.3	47.6	45.7	37.0 (38.2)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	34.5	33.8	32.8	34.7	35.9	35.7	33.4 (35.5)
建設	44.8	44.9	44.5	48.5	45.7	49.2	49.8 (46.5)
製造	41.6	41.4	37.7	38.2	42.3	36.9	34.0 (43.1)
卸売	30.7	29.6	24.8	26.7	29.9	31.9	30.0 (32.8)
小売	24.4	24.9	25.3	28.9	26.8	27.5	26.5 (27.1)
サービス	30.7	26.8	29.4	30.3	33.7	35.1	31.1 (30.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造で悪化超感が大幅に弱まったことから、全産業合計のD Iも3カ月振りに悪化超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】建設、サービスを除く3業種は昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	0.7	0.1	0.4	0.7	1.7	2.6	5.0 (0.9)
建設	1.8	0.0	1.8	3.4	6.4	6.0	0.7 (3.0)
製造	4.9	7.3	5.9	8.6	12.3	12.2	13.6 (4.1)
卸売	4.8	1.9	8.8	5.7	9.8	2.4	1.8 (7.8)
小売	8.3	8.4	3.1	9.1	1.8	3.0	1.4 (6.1)
サービス	5.2	3.0	3.8	3.3	4.8	7.0	7.7 (4.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、小売を除く3業種で下落超感が弱まり、全産業合計でも下落超感が弱まる。全産業合計で2カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まり、全産業合計でも下落超感若干弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	15.6	15.0	14.9	14.2	16.4	15.8	16.3 (16.8)
建設	36.7	32.0	33.8	33.1	34.2	35.7	30.5 (33.6)
製造	21.8	22.8	21.8	20.5	25.6	21.6	22.1 (23.7)
卸売	16.0	14.9	16.8	16.3	11.0	15.0	15.6 (16.5)
小売	3.7	4.3	4.9	3.8	7.0	4.2	7.0 (7.8)
サービス	8.9	7.5	5.8	6.7	8.5	10.1	12.0 (8.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】製造、小売で過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる。

【先行き見通しD I】サービスを除く4業種で、昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成14年11月の景気キーワード】

先行き不安感

業種を問わず景気の先行き不安感を訴える声が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事、民間設備投資とも依然、状況は厳しく、好転の兆しは見られない」（赤穂・一般工事）「一段と業況悪化し、公共工事は地方財政逼迫により先行き全く不透明」（浜田・一般工事）製造業からは、「一部に若干明るさはあるが、全般的にはまだまだで、実需期にこの状態では先行き不安感が一層募る」（半田・織物）「先行き不安材料多く、年末に緊迫した状況が予想される」（岩見沢・印刷）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「例年、今の時期は年末商戦への期待の声が聞かれるが、今年は無く不安感が広がっている」（帯広・各種商品卸）「公務員の月給減額、民間企業の賃下げによる、可処分所得減少による消費の抑制、生活防衛が一層強まっている」（盛岡・商店街）「ボーナス前年割れの企業が多い中、12月の売上減が懸念される」（京都・百貨店）「忘年会を期待するも、予約状況はさっぱり」（尾道・食堂、レストラン）といった、年末に向けての歳末商戦、忘年会等の宴会需要への厳しい見方が寄せられている。

競争激化・単価下落

需要の低迷、同業者や海外との競争激化と、それに伴う単価の下落傾向が止まらないとの声が多い。建設業からは、「少ない受注を巡って価格競争が激化、採算割れも」（釧路・一般工事）「冬期に向け仕事量は増加しているが、価格は依然として低迷」（会津若松・電気工事）製造業からは「消費の冷え込みと輸入品の増加により過当競争」（瀬戸・陶磁器、同関連）「輸入品の増加により国内の販売価格が抑制され、適正価格に至らない」（燕・金物類製造）「人件費の安い中国と価格競争をするため受注価格が引き下げられており、工事量があっても売上高が減少」（相生・船舶製造、修理）といった厳しい状況を訴える声が多い。また、その他の業種でも、「観光シーズンで人出は多いが、売上は伸びない」（京都・商店街）「来店客数はそれほど変わっていないが、客単価が下降し売上が前年をわずかに下回った」（倉敷・百貨店）「低価格志向で館内消費も伸びない」（松山・旅館）「低価格の大型チェーン店の進出で競争激化」（高松・理容）といった声が寄せられている。

資金繰り悪化

金融機関の貸出し姿勢の変化等から、資金繰りが悪化しているとの声が増えており、「銀行金利が上がっており、借入れ申し込みに対する審査も時間がかかり、結果的に資金の需要時に借入れが不可能となるケースが多い」（盛岡・各種商品卸）「年末に向けて資金繰りに苦慮しているが、不動産の担保価値が急激に下がり、昨年・一昨年と同条件では借入れできない」（館山・金属加工機械）「年末賞与支給のため、資金繰りに苦慮している経営者が多い」（前橋・衣服、日用品卸）といった声や、「金融株の低落が続く中、一層の貸し渋り傾向が強まるのではないか」（加古川・各種商品卸）との、今後、貸し渋りが進むことへの懸念を訴える声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 9月	先行き不透明感	「景気回復感」なし	資金繰り悪化
10月	先行き不透明感	競争激化・単価下落	
11月	先行き不安感	競争激化・単価下落	資金繰り悪化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは3カ月振りにマイナス幅が縮小したが、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「相変わらずの競争の激化、官民ともに発注量の減少、収益率の低下で、厳しい状況」(一般工事)といった声が多く、「年末にかけて小規模な受注はあるが、利益確保につながらない」(電気工事)「中堅企業の倒産が出ており、潜在的に倒産寸前の予備軍が多くあると懸念」(一般工事)など、年末に向けて厳しい状況を訴える声も多い。「補正予算について、インフラ整備がどの程度の規模になるかに関心」(土木工事)と、今後の補正予算編成についてのコメントも寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iとも、3カ月振りにマイナス幅が縮小。「商品提案力や販売力の差による好不調が目立っている」(ニット・シャツ)と企業間格差を指摘する声も寄せられているほか、「原油価格の値上がりにより、樹脂、塗料、ガスなどの値上げが続いている」(計量器測定器等)と、仕入れコストの上昇や、「短納期、低単価が恒常化しており、受注量はあるが採算はギリギリ」(電子部品)「親会社が海外生産を始めたため、受注が半減し廃業するなど、深刻な状況が見られる」(鉄素形材)など、厳しい状況を訴える声も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも、3カ月振りにマイナス幅が縮小。「寒波の到来が早く、冬物の動きが活発」(衣服・日用品)といった声があるものの、「例年、今の時期は年末商戦への期待の声が聞かれるが、今年は無く、不安感が広がっている」(各種商品)と、消費低迷による年末商戦の動向への不安感を訴える声や、「仲買人の注文品目の多様化に伴い、見込み仕入をせざるを得ない状況」(食料・飲料)と、消費動向の変化への対応が難しくなっていることを指摘するコメントも寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大したが、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小。採算D Iは4カ月振りにマイナス幅が拡大した。「客数は減っていないが、売上は対前年比減少」(各種商品)と客単価の下落を訴える声や、「寒さが早く来たので、防寒物が売れて昨年の売上を維持できている」(商店街)と天候の影響を指摘するコメントが寄せられており、「消費者の収入への不安からくる買い控えがみられる」(商店街)との声や、「お歳暮売場を去年より早めて開設したが、低調」(百貨店)「歳末商戦に賭けるが、消費者の財布の紐は固く、厳しいと思われる」(百貨店)との厳しい見方が寄せられている。
サービス	業況・売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大し、採算D Iは3カ月振りにマイナス幅が縮小した。「企業・役所の出張や宴会等の自粛のためなかなか業績が上がらない」(旅館)「各企業の業績悪化により、小型輸送の宅配便は増加しているが、大型トラック輸送が減少」(運輸)「家庭で洗濯できる安い衣料が増え、クリーニングに出す絶対量が減ってきている」といった声や、「忘年会予約状況鈍く、会社単位の忘年会は減少し、小人数グループ化していく見通し」(食堂、レストラン)など、年末に向けて宴会需要の減少を懸念する声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）をみると、北海道、東北、中国を除く6ブロックでマイナス幅が縮小し、全ブロック合計では3カ月振りにマイナス幅が縮小した。

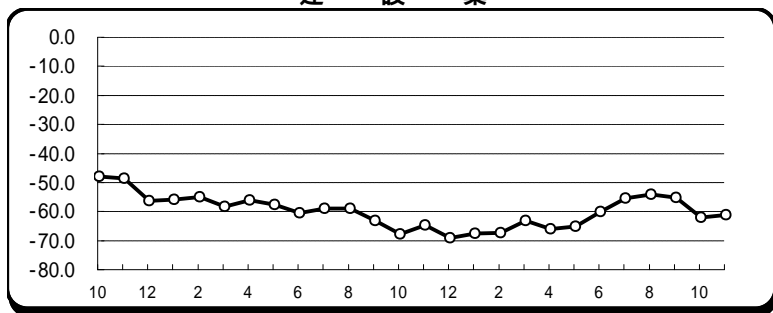
ブロック別の向こう3カ月（12月～2月）の業況の先行き見通しは、全ブロック合計で、引き続きマイナス水準が続く。北海道を除く8ブロックで、昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小し、上向いているが、依然として低い水準にある。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

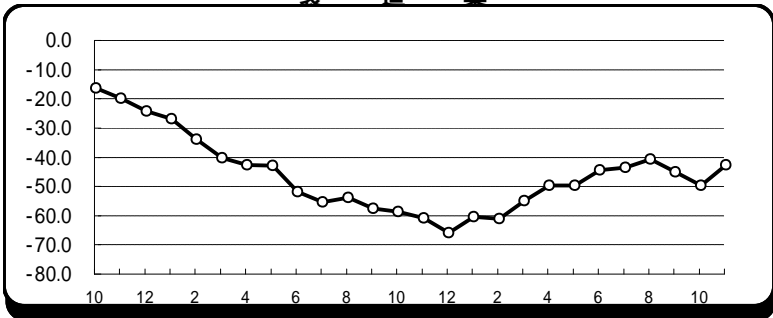
	14年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全 国	48.1	48.9	46.4	48.1	52.3	50.4	45.1 (50.4)
北海道	40.8	43.3	45.4	40.3	41.3	50.8	50.8 (44.4)
東 北	51.8	55.3	50.3	51.5	53.2	54.0	47.7 (61.5)
北陸信越	46.0	40.1	38.5	44.3	47.0	45.4	49.2 (52.5)
関 東	50.1	43.5	42.6	46.1	54.7	51.1	40.7 (45.7)
東 海	43.1	52.8	43.2	49.7	53.0	51.2	43.6 (50.3)
近 畿	53.0	52.9	55.1	52.6	58.0	53.3	49.5 (55.7)
中 国	51.4	55.2	44.4	48.1	49.3	50.6	48.7 (51.3)
四 国	52.6	58.7	56.3	55.4	60.6	55.0	35.8 (47.0)
九 州	40.0	48.9	46.2	45.7	46.5	41.5	41.5 (48.5)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

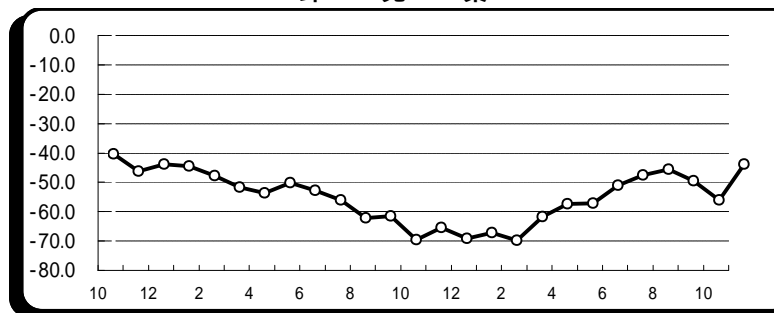
建設業



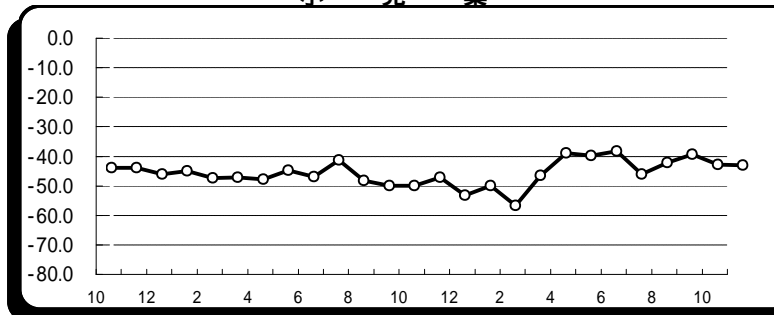
製造業



卸売業



小売業



サービス業

